

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

Inoue M, Kitakoji H, Ishizaki N, et al. Relief of low back pain immediately after acupuncture treatment –a randomized, placebo controlled trial *Acupuncture in Medicine* 2006; 24(3): 103-8. CENTRAL ID: CN-00572564, PMID: 17013356

1. 目的

腰痛に対する圧痛点への鍼刺激による直後効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属鍼灸センター、京都、日本

4. 参加者

2003年4月～2004年12月に受診した腰痛患者 31名

5. 介入

Arm 1: 鍼群 (15名、男性 11名、女性 4名、平均年齢 68±6歳)。セイリン社製ステンレス鍼 (0.18×40mm) を用い、最も圧痛の強い部位に 20mm 刺入、雀啄術を 20 秒間施した。

Arm 2: シャム鍼群 (16名、男性 10名、女性 6名、平均年齢 70±8歳)。最も圧痛の強い部位に鍼を使用せず鍼管を叩打した。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みの VAS および Schober テスト (脊柱の可動性試験)。

7. 主な結果

治療前と治療直後の数値の差を用いた群間比較において、Arm1 は Arm2 と比較して、VAS ($P=0.020$)、と Schober テスト ($P<0.001$) のいずれも有意な改善が認められた。

8. 結論

最も圧痛が強い部位への鍼刺激は、腰痛に対して直後効果をもたらす。

9. 鍼灸学的言及

圧痛点への鍼治療が有効である機序として下行抑制系や脊髄抑制系の賦活などについて言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、評価者・患者をマスクした試験によって鍼治療の効果を検証しており非常に高く評価できる。また、マスクの成功についても記載されている。研究の目的が鍼治療の直後効果をみることであるため、フローチャートがなくフォローアップも行われていないが、その後の効果がどうであったのか気になるところである。シャム鍼に関して工夫を重ねれば、さらなる発展が期待できると考える。

12. Abstractor

保坂政嘉 2011.9.11